

国内外企業の進出を
ワンストップサービスで
支援する総合窓口

ひょうご・神戸投資サポートセンター (公益財団法人ひょうご産業活性化センター)
〒651-0083 神戸市中央区浜辺通5-1-14 神戸商工貿易センタービル4階
TEL:078-271-8401 FAX:078-271-8403 hkisc@staff.hyogo-iic.ne.jp

兵庫県ビジネスサポートセンター・東京
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3 都道府県会館13階
TEL:03-3230-2721 FAX:03-3230-2722

iPS細胞を用いた再生医療の実用化を神戸から 大日本住友製薬株式会社

画期的かつ有効な新薬を創出・提供し続ける大日本住友製薬。2014年4月には、iPS細胞等の最先端サイエンスを創薬に応用する事業を強力に推進するため、神戸に研究拠点を新設した。難病性希少疾患の治療法として期待される、再生・細胞医薬事業に注力する同社の執行役員 再生・細胞医薬事業推進室長 木村徹氏に、新規事業への展望について講演いただいた(「神戸医療産業都市への外国・外資系企業誘致セミナー」2015年10月・東京)。



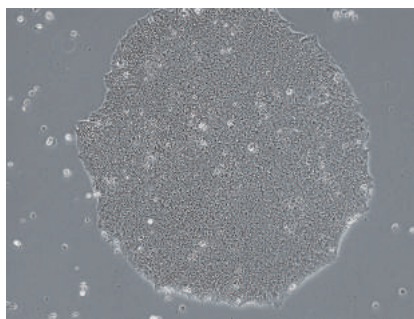
再生・細胞医薬事業を 取り巻く状況

弊社はiPS細胞由来の細胞医薬品の創生、細胞を薬として用いて患者の組織を再生させる再生・細胞医薬事業に取り組んでいます。実用化されている臓器・骨髄移植はドナー不足等の問題、またヒトになり得る胚を壊して作るES細胞(胚性幹細胞)は倫理的な問題がありましたが、2006年、ヒトの体の細胞からつくるiPS細胞(人工多能性幹細胞)が開発され、再生医療・細胞医薬の実現化が現実味を帯びてまいりました。その市場は2050年には国内2.5兆円、世界38兆円とも言われています。1990年頃から神経栄養因子、組織再生の研究を続け、細胞研究を行うグループ会社の基盤がある弊社は、2013年に新規分野への参入を決意しました。

新しい創薬、 医薬品の分野を目指す

iPS細胞による移植には、元となる細胞が患者本人のものである「自家移植」と、ドナーから提供される「他家移植」があります。既に臨床応用されている「自家移植」は長期間を要し、莫大なコストがかかることもあり、弊社では新分野の

「他家移植」で細胞を大量に作って管理、それを細胞医薬品にして患者に戻す治療に取り組んでいます。実用化されるとストックした細胞を緊急時に即投与でき、世界中へ送付可能、コストも押さえられるメリットがありますが、現状では研究開発から市場形成への過程に多くの課題があります。そこでグループ企業を含む他製薬企業、新分野への強い推進力と研究開発経験のあるバイオベンチャー、実用化技術に直結する発生生物学に精通しているアカデミアと連携し、問題解決に努めています。



拠点は「神戸」、 フィールドはグローバルに

弊社は研究拠点「神戸再生・細胞医薬センター」を2014年4月、医療センター駅前に新設しました。周辺は「理化学研究所多細胞システム形成研究センター

(CDB)」をはじめ、医療関係の拠点が点在する神戸医療産業都市の中心地で、眼科の加齢黄斑変性、網膜色素変性、脳の慢性期脳梗塞、パーキンソン病、脊髄損傷の治療研究に注力しています。将来、拠点近くにiPS細胞の培養工場建設も計画しています。医薬品医療機器総合機構(PMDA)や厚生労働省等の関係機関も近く、臨床研究や治験可能な病院、医療関連企業・研究所が集積する神戸だからこそ、自社単独では困難な新事業にも挑戦できます。神戸市の多面的なサポート環境も活用し、自治体や企業、皆で力をあわせて神戸発のiPS再生医薬品の実用化に取り組んでいきたいと思いを。



大日本住友製薬株式会社

所在地: (大阪本社) 大阪市中央区道修町2-6-8
(東京本社) 東京都中央区京橋1-13-1
(神戸再生・細胞医薬センター) 神戸市中央区港島南町1-5-2
神戸キメックセンタービル 5F
代表取締役社長: 多田正世
事業内容: 医薬品の製造販売
URL: <http://www.ds-pharma.co.jp>

国内外企業の進出を
ワンストップサービスで
支援する総合窓口

ひょうご・神戸投資サポートセンター (公益財団法人ひょうご産業活性化センター)
〒651-0083 神戸市中央区浜辺通5-1-14 神戸商工貿易センタービル4階
TEL:078-271-8401 FAX:078-271-8403 hkisc@staff.hyogo-iic.ne.jp

兵庫県ビジネスサポートセンター・東京
〒102-0093 東京都千代田区平河町2-6-3 都道府県会館13階
TEL:03-3230-2721 FAX:03-3230-2722

ライフサイエンスに注力する神戸は医薬研究に最適

日本イーライリリー株式会社

1876年、米国インディアナポリスにて創業、現在125ヶ国に医薬品を提供する世界的製薬企業、イーライリリー・アンド・カンパニー。その日本法人、日本イーライリリーは神戸に拠点を置き、「研究開発こそ企業の魂である」という理念を受け継ぎ、革新的新薬を開発し続けている。同社の執行役員 研究開発/医薬開発本部長 吉川彰一氏に、拠点としての神戸の魅力について、同社の事例を踏まえて講演いただいた(「神戸医療産業都市への外国・外資系企業誘致セミナー」2015年10月・東京)。



研究開発型製薬企業の 理念を継いで

弊社は、135年以上の歴史を通じて「世界初」の医薬品を数多く開発してきたイーライリリー・アンド・カンパニーの日本法人として1975年、神戸に設立されました。米国に次ぐ規模を誇る最大の支社として海外法人の中でも重要な位置付けにあり、中央区に本社、西区に西神工場とトレーニングセンターがございいます。業界トップクラスの費用を投じて医薬品の研究開発を行っており、おかげさまで特にここ数年は高い成長を遂げることができております。本日は弊社事業のご紹介を踏まえまして、神戸の魅力と、外資系企業こそ神戸に成功の素地があるということをお伝えできればと思っています。



西神ラボラトリーズ

高齢化が急速に進行する 日本において

超高齢化が進む中、未だ有効な治療法がない医療ニーズが増大する日本の現況を見据え、中枢神経系疾患・内分泌系疾患・癌・循環器系疾患の薬効分野に集中しています。なかでも注力しているのが神戸医療産業都市(KBIC)とコラボレートして開発を進めているアルツハイマー型認知症の治療薬です。神戸に拠点を置く価値としてもぜひこの連携は強調したいと思います。KBICにいらっしゃる世界的ソートリーダーである先生方や病院ネットワーク、先端技術へのアクセスを活かし、病因を検証するための臨床試験を推進するお手伝いをしています。このコラボレーションにより、患者の早期発見、早期治療という形を通して、高齢化社会に向き合う神戸市へも貢献できればと考えています。



医薬品研究に最適な ビジネス&住環境

神戸の競合優位性は他にも多々あります。まずインドや韓国よりも大きく、ロシア一国にも匹敵する関西地域の医薬品市場としての魅力。外国人学校をはじめとするインフラが充実し、外国人が生活しやすい土地柄。また医学・薬学系大学の卒業生が未永く暮らし働くことができる環境が整い、優秀な人材を確保できること。そして神戸を語る上で欠かせない、生活の質の高さ。交通の便も治安も気候もよく、神戸ビーフやスイーツといったグルメでエネルギーを補充しながら、日々楽しく仕事をさせていただいています。1868年の開港以来、外国人や新しいものを積極的に受け入れ、優れたものを生み出してきた神戸は、外資系企業が根を張り成長・発展するのに、最適な社会的土壌を備えていると思います。

日本イーライリリー株式会社

所在地:
(本社)神戸市中央区磯上通7-1-5三宮プラザビル
(西神ラボラトリーズ)神戸市西区高塚台4-3-3
代表執行役社長:ノットリック・ジョンソン
事業内容:医薬品の製造販売
URL: <https://www.lilly.co.jp>